

着いた後、近隣のスポーツ団体や協力者と打ち合わせを重ね、規模を縮小した上で、個別のチームや団体に出張型のスポーツサイエンス・セミナーを企画することにした。

縮小版のスポーツサイエンス・セミナーでは、出張先の要望を確認したのち、測定項目を選別して、身体計測および体力測定に加えて、測定値の活用方法やポイントの講習を実施した。2023年2月18日(土)には、信州松本ダイナブラックスU-15チームに所属するバスケットボールをする松本市近隣の小・中学生を対象に実施した。同チームでは、身長や体重といった身体計測とジャンプ測定と走力測定を行った後、測定値の活用方法について選手と保護者約25名に講義した。



スポーツサイエンス・セミナーでの講義

2023年3月4日(土)には、松本市で活動するNPO法人総合体操クラブWingに所属する小学生から大学生までの男子新体操選手約10名を対象として、身体計測とジャンプ測定を実施した。同チームでは、新体操経験をもつ公認スポーツ栄養士や指導者が在籍していることから、今回の測定値はチームスタッ

フにフィードバックを行い、2023年7月頃に再度測定をした後、講義を行う予定である。



ジャンプマット測定の様子

(4) 成果の公表(活動発表・論文執筆等)

- ・新聞各社(市民タイムス)に実施告知の掲載
- ・松本大学ホームページに実施報告の掲載
- ・藤枝明誠高校男子バスケットボール部のスポーツ合宿動画(2022年版)へ協力団体として本学の掲載及び同部での発信
- ・信州松本ダイナブラックスと協同したスポーツ栄養活動として地域広報(SPOCOLLAR)に掲載予定。

(5) 共同活動者

- ・五嶋博之氏(Princeton Offense Academy, 松本大学男子バスケットボール部外部指導員): 地域食材を利用したスポーツ合宿(伊那市)の主催、調整役として活動。
- ・武井弘明氏(信州松本ダイナブラックス): スポーツサイエンス・スクールにおいて共同開催者として広報の協力及びプロアスリートとしてゲスト講師として活動。

8. 地域民話を取り入れた絵本童話の作成と活用による地方の文化創生

人間健康学部スポーツ健康学科 山崎 保寿

(1) 活動計画

① 課題意識

長野県は民話の宝庫であり、地方に伝わる民話が数多くある。松本市においても、各地区に古くから伝わる民話がある。本活動は、松本市和田地区に所在する「竜田の石」に焦点を当て、地域の民話の内

容を創作童話として再構成し、地域の幼稚園、小学校等における読書活動で活用できるようにし、松本大学と地域との連携を深めていくことを目的とする。

② 進め方

長野県立図書館をはじめ地域の図書館等所蔵の民話本を活用したり、地域に伝わる民話を拾い集め、

地域の識者等への取材も加えたりして、一つひとつの民話を再話という方法で物語に整えていく。それらをまとめ、幼稚園児、小学校児童向けの副教材冊子として編集し、印刷製本する。作成した冊子を地域の保育園、小学校、児童センター、公民館等に提供し、子どもの読み聞かせ等に利用してもらう。また、冊子を伊那、塩尻、安曇野、池田町等の図書館、民話を収集した地域の小学校(松本市立芝沢小学校)等に趣旨を説明したうえで寄贈し、地域に本活動の成果を還元していく。

③期待される成果

再話という方法で地域に残る伝説を民話の形にすることによって、地域の人々や子ども達を読みやすく、地域を見直すことにつながる。再話とは、地域に伝わる民話や昔話をもとにして、新しい物語を創作することである。再話を行うことで、地域を見直したり、子どもたちの想像力をふくらませたりすることができ、地域における文化創生の一助になる。

また、作成した民話絵本を配布することによって、研究活動の成果を広めるとともに、松本大学と地域との連携を一層強めていくことになる。民話絵本の内容に、地域の自然、歴史、地名等を記すことによって読者が改めて地域を知る機会となる。

(2)活動内容

高遠、奈川、安曇野、乗鞍等の地域における民話の収集を継続し、収集した民話の中で、これまで物語として公表されたことが少ない「竜田の石」に関する民話を再話の方法で作成した。物語を山崎が創作、挿絵を学生の協力によって作成し、民話絵本の童話としてまとめた(写真①)。読者層として、幼稚園から小学校低・中学年の年齢層を想定した。

作成した民話絵本の冊子を地域の保育園(松本市立新村保育園)、児童センター(松本市和田児童センター：写真②)等に提供し、副教材や子どもの読み聞かせに利用してもらった。また、民話絵本の冊子を伊那市、安曇野市(伊那市立図書館、高遠図書館：写真③)、池田町、筑北村等の図書館、民話を収集した地域の小学校(松本市立芝沢小学校：写真④)、新村公民館(写真⑤)、和田公民館等に寄贈した。

(3)活動の成果

本研究の遂行にあたって、上記図書館・地域での資料収集のほか、次の方々に協力いただき、地域連携の成果として作成した民話絵本の冊子を寄贈した。



写真①



写真②

赤羽秀明(松本市立芝沢小学校校長)、吉澤高志(同小学校教頭)、萩原良治(松本市和田公民館長)、新村芳男(松本市新村公民館長)、神田操(松本大学図書館スタッフ)、松本市立新村保育園の皆様、松本市和田児童センターの皆様、松本大学生協カフェテリアの方々。新村保育園、新村児童センター、芝沢小学校、和田児童センターには5~40冊の冊子を寄贈し、一定数の子



写真③



写真④



写真⑤

もと保護者にも民話絵本が届くよう配慮した。こうした寄贈により、研究成果を地域へも還元することができた。

また、「竜田の石」は、中部縦貫自動車道の建設により存続が危ぶまれており、地元の取材や情報収集に基づいた絵本を作成することによって、地名、由来、歴史、自然に配慮する内容で作成した。

(4) 成果の公表(活動発表・論文執筆等)

【成果物】

山崎保寿(作)・藤澤隆平(絵)『竜神の秘願』2023年2月、全22頁(創作絵本)

【活動発表】

- ・山崎保寿「地域民話を取り入れた絵本童話の作成と活用による地方の文化創生Ⅱ」第11回松本大学教員研究発表会、於：松本大学、2023年2月21日